

白藍塾オリジナル

2017入試小論文分析&解答のヒント

2017年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・看護医療学部

昨年度と同じく、課題文は福沢諭吉の考え方を説明した文章。福沢の文章からの引用部分は文語体なので読みにくいかもかもしれないが、筆者がていねいに説明してくれているので、わからないことはないだろう。

前半をまとめると、「独立した精神を持った少数の人々の『異端妄説』こそが文明を進歩させる。ただ、それだけでなく、一般の人々の間にそうした『異端妄説』を進んで受け入れる『自由の気風』が必要だ。そして、さまざまな『異端妄説』が競い合う中で、試行錯誤を通して新しい世論が形成され、定着していく」となる。

問題1は、「多事争論」について、本文をもとに説明することが求められている。これは、先にまとめたような、さまざまな少数意見が自由に議論される状況のこと。さらに、そうした自由な議論を通じて誤りが自然に正され、社会が正しい方向に向かうことが期待されている。そうしたことを、基本型Aを使って説明するとよいだろう。

問題2は、福沢が「惑溺」を批判した理由を論じることが求められている。

この場合、まず福沢の言う「惑溺」が何を意味するかを正確に捉える必要がある。これは課題文の後半で説明されているが、要するに、日本の古い慣習であれ西洋の文物であれ世論であれ、特定の考え方に無批判に盲従する態度のことを指している。

福沢は、そうした態度を、「自由の気風」の対極にあるものとして批判しているわけだ。

「論じなさい」という文言から言っても、500字という字数から言っても、これは説明問題ではなくて小論文問題。福沢が「惑溺」を批判するのは、それが人々から「精神の独立」を奪う、つまり自分の頭で物事を考えることをできなくさせ、それによって社会の停滞を招くからだだろう。第1部でそうしたことを説明した上で、福沢のそうした考え方が正しいかどうかを問題提起するのが論じやすい。

とは言っても、これにノーで答えるのは難しい。結論から始めて、第2部で「確かに、人々が特定の価値観に従っているほうが、社会秩序が安定する面もあるかもしれない。しかし、～」などにつなげた上で、第3部でそのことのマイナス面を具体的に説明すると、うまくまとまるはずだ。

出題形式も、例年通りのオーソドックスなものだし、課題文がしっかりと読みとれさえすれば、難しいことはないだろう。課題内容からしても、医療や看護と無理に結びつける必要は

ない。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <http://www.hakuranjuku.co.jp>